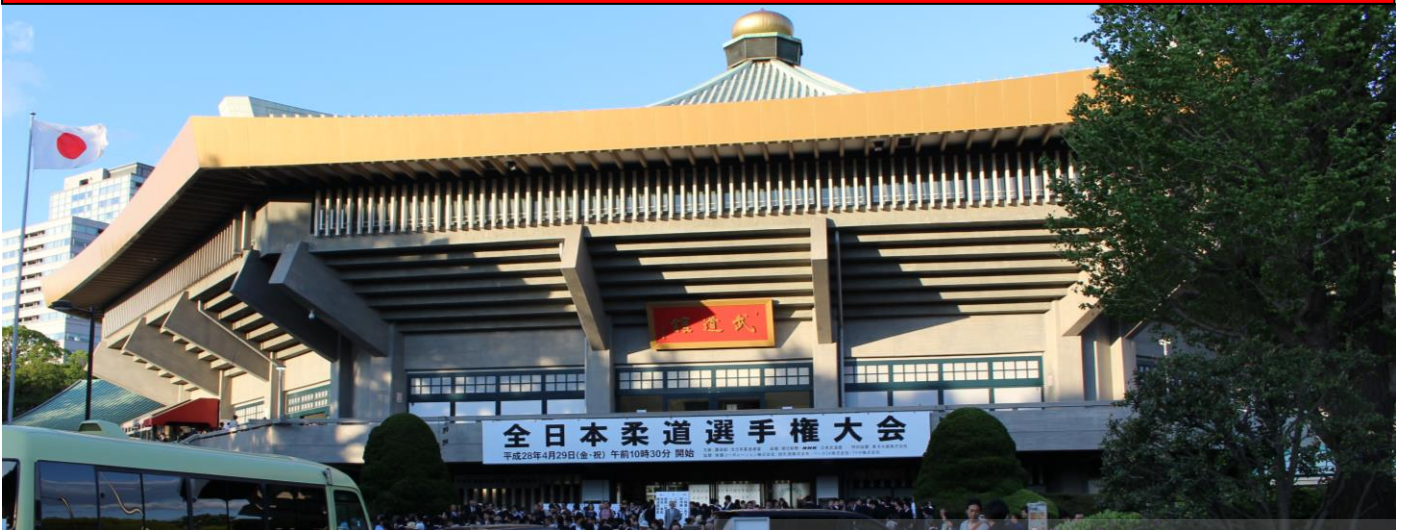


平成28年 全日本柔道選手権大会

平成28年4月29日



日本武道館と全日本柔道選手権大会について
日本武道館は1964年(昭和39年)9月に日本武道の大
殿堂として皇居(江戸城址)北の丸に完成した。同年10
月3日開館式が行われ、天皇皇后両陛下を迎え「演武
始めの儀」が弓道、相撲、剣道、柔道の順に行われ、同
年10月20～23日の第18回東京オリンピックで初めて
正式競技に採用された日本の国技柔道の協議会場と
して連日熱戦が繰り広げられた。

全日本柔道選手権は、柔道の創始者、嘉納治五郎
没後10年に開催されたのが始まり1930年(昭和5年)
～1941年(昭和16年)全身の全日本柔道選手権大会
が開催され、1948年(昭和23年)～全日本柔道選手権
大会と改称し1949年大会は決勝で2度の延長戦のの
ち両者技が出ないことから審判長の裁定で両者優勝と
いう異例の大会となった。大会開催日が4月29日にな
ったのは1970年(昭和45年)からで1974年(昭和49
年)は5月5日であった。この大会はオリンピック、世界
選手権の開催年は重量級の代表選手選考会となっ
ている。

平成28年4月29日、今年も全日本柔道選手権されました。今年ハリオデジャネイロ・オリンピックの開催年であり、さる4月2日(土)、3日(日)に開催された全日本選抜体重別選手権大会と、4月17日(日)の皇后杯全日本女子柔道選手権大会で男子6階級、女子7階級のオリンピック代表選手が決まっております、最後の100kg超級の選手がこの大会の結果で決定される重要な大会です。

私たちは、29日午前1時に美里町を出発。途中休憩を取りながら武道館がある北の丸公園(武道館は江戸城内北の丸にある)の駐車場前に6時に到着。駐車場は7時に開場するので、40分位北の丸公園を散歩、駐車場に車を止め8時30分まで靖国神社を観光しコンビニで朝食を買い車で休み(江戸城散策をしたかったが)10時に会場入り開会式を待つことにしました。

リオオリンピック代表をかけた大一番 原沢の連覇か、七戸の初優勝か 王子谷、西潟、上川も虎視眈々と王座狙う

大会パンフレットの予想は昨年と同様、原沢と七戸の決勝に王子谷、西潟、上川がどう絡んでくるかと言う予想であった、4月2・3日の体重別選手権の結果を見てもそうなると思われていたであろう。さて四強は…

王子谷 vs 七戸 上川 vs 原沢

という対戦となりました。さてここまでの4選手の勝ち上がりは王子谷は2回戦・大外刈り一本、3回戦・浮落-横四方固め合技一本、準々決勝・隅落有効で優勢勝ち、七戸は2回戦・指導2での僅差、3回戦・内股一本、準々決勝・大外刈り-崩袈裟固め合技一本。一方上川は、2回戦・払腰一本、3回戦・大外刈り一本、準々決勝・大外刈り-崩上四方固め一本、とオール一本勝ちで上がってきた。今大会一番人気の原沢は2回戦・判定、3回戦準々決勝とも僅差と精彩に欠ける試合であった。(下は準決勝の連続写真です)



準決勝、王子谷 vs 七戸、3分57秒大外巻込一本で見事決勝進出、もう一つの準決勝、上川 vs 原沢は両者技を掛けるが決定的な技がなく判定で上川に軍配があがった。さて、決勝戦は準決勝を一本で勝ち上がった王子谷と準々決勝までオール一本で勝ち上がったが準決勝では旗判定6分フルタイムで勝ち上がった上川の一昨年と同じカードの対戦、王子谷が昨年の雪辱を果たすか、上川が意地を見せるか原沢・七戸の対戦にならなかったがそれ以上に盛り上がる試合にしてほしい。(下は決勝戦の連続写真です)



決勝戦、やはり王子谷のペース、先に技をかけるのは王子谷、大外刈りで技ありをとる。その後互いに技を掛け合うが決め手にはなら

ず、上川に疲れが出たところに王子谷が支釣込足で技あり合わせ技一本で勝負を決めた。最後は右手を大きく上げてガッツポーズ審判に注意を受ける場面もあったが見ごたえのある試合であった。

リオデジャネイロ・ オリンピック代表

- 男子100kg超級 原沢 久善
- 男子100kg級 芳賀 龍之介
- 男子90kg級 ベイカー 茉秋
- 男子81kg級 永瀬 貴規
- 男子73kg級 大野 将平
- 男子66kg級 海老沼 匡
- 男子60kg級 高藤 直寿

日本武道館で行われる柔道大会

- 全日本柔道選手権大会
- 全日本学生優勝大会
- 全国警察選手権大会
- 全日本学生体重別選手権大会
- 全国警察大会